
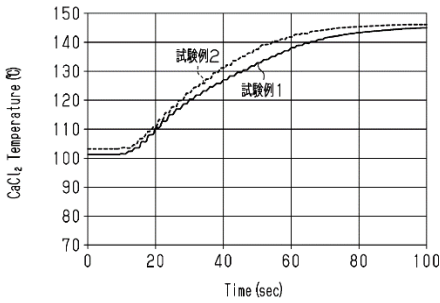


重点研究プロジェクト（Ⅲ期）知財公開用情報

<p>発明の名称</p>	<p>化学蓄熱体及び化学蓄熱反応器</p>
<p>登録(出願)日 登録(出願)番号</p>	<p>出願日:2020/8/31 出願番号:特願 2020-145201</p>
<p>要約</p>	<p>【課題】 化学蓄熱材を用いた蓄熱装置やヒートポンプでは、昇温動作の際、化学蓄熱材が潮解して、熱交換器から流出してしまい、動作回数の増加にともない性能が低下するという課題があった。</p> <p>【解決手段】 化学蓄熱材と化学蓄熱材を収容する容器とを備えた化学蓄熱体を用いる。容器は、容器の内外の水蒸気の透過を許容する水蒸気透過部を有する。水蒸気透過部は、非多孔質の水蒸気透過性フィルムから構成される。</p>
<p>特徴／ セールスポイント</p>	<p>蓄熱装置やヒートポンプの昇温動作では、速やかに昇温することが好ましい。一方で、反応媒体に水蒸気を使用し、化学蓄熱材として反応性の高い材料を用いた場合、化学蓄熱材が潮解によって液状化して流出してしまい、性能が低下する。本発明では、化学蓄熱材を蒸気透過性フィルムと伝熱促進金属箔で覆うことで、潮解しても蓄熱材の流出を抑制することができるため、装置性能が低下しない。</p>
<p>主な応用分野</p>	<p>化学蓄熱材を用いた蓄熱装置、ヒートポンプ装置</p>
<p>開発状況</p>	<p>本発明の蓄熱体を試作蓄熱装置に組み込み性能試験を実施中</p>
<p>参考する写真等</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;"> <div style="text-align: center;">  <p>試作蓄熱体</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>化学蓄熱材の発熱速度比較 (試験例1:フィルム有、試験例2:フィルム無)</p> </div> </div>
<p>権利(出願)機関</p>	<p>日新電機株式会社 国立大学法人東海国立大学機構</p>
<p>問い合わせ先</p>	<p>機関名: 日新電機株式会社 部署: 研究開発本部 技術開発推進センター 担当者名: 可貴 裕和 電話:070-2911-5565 e-mail :kaki_hirokazu@nissin.co.jp</p>